

第5回 西宮市緑の基本計画改定検討会 議事録

■日 時：令和元年6月17日(月) 10:00～12:00

■場 所：西宮市役所 東館 8F 大ホール

■出席委員：平田座長、梶木副座長、栗本委員、栗野委員

■事務局：土木局長 他12名

■議 事：(1) 第4回 改定検討会におけるご意見について
(2) 計画(素案)について
(3) その他

■議 事 録：(「⇒」は意見・質問に対する回答又は関連する意見等を示す。)

(1) 第4回 改定検討会におけるご意見について

- ・ (ご意見をいただいたが、主旨は計画内容に関わるものであったため、(2)にてまとめた。)

(2) 計画(素案)について

①「第2章 計画改定の背景と視点」について

- ・ p.9～10について、「西宮のみどりの概況と特徴」についてまとめられているが、西宮のみどりの特徴でもある「環境学習」について記載するとよいと考えられる。【委員】

②「第4章 本市が目指すみどりの姿」(主に計画の指標)について

- ・ p.29のA3の全体指標の「公共性のあるみどりの量」は、平仮名で表記され、活動も含めた概念として捉えられるものと考えられるが、具体的にどのような指標を想定しているのか。【委員】

⇒ この全体指標については、持続性のある施設緑地や地域性緑地の総量を想定していたが、計画の方向性として、市民への分かりやすさに力点を置いている状況を踏まえ、別の指標を再検討しようかと考えている。【委員】

⇒ 市民の緑に関する活動量を指標化しようかとされているのかと思います、それであれば、面白い指標かと思った。例えば、木登りできる子どもの数だとか、秘密基地を作ったことのある人、公園でピクニックをしたことのある人の割合だとか、ユニークな指標となると考えられる。【委員】

⇒ そうした指標はアンケートで抽出されるのか。【委員】

⇒ 今回、この計画を作るために、一般市民向けと子ども向けのアンケート調査を実施した。これを同一の設問でそのまま継続することはないが、数年に一度くらいのペースで、今回設定する指標の推移を迫る内容のアンケート調査を実施する予定である。【事務局】

⇒ 西宮ならではの、歴史的な風景や好きな景観、思い出の景色などを問い、その中に含まれる緑を抽出するもよいのではないかとと思われる。【委員】

⇒ 目標は設定されているため、その目標を評価するための指標が必要である。先ほどの「ピクニックをしたことのある人」というのも「子どもの遊び環境や自然体験の機会を充実する」につながるし、心証風景としての緑も「水と緑のネットワークと、特色ある花のみどりの景観を守り育てる」につながると考えられる。そうすると市民にとってより身近な計画になり得ると考えられる。こうした視点で、指標を設定してもらいたい。【委員】

⇒ これまでのアンケート調査はニーズを把握するものであった。今後は、どう達成されたかを把握するアンケートになる。現在、指標も含め、どのように評価するのかといった

ところを最も悩みながら検討しているところであり、何か良いアイデアがあれば、ぜひともご提案いただきたい。【事務局】

⇒ 基本理念として、住みたい、住み続けたいとか、豊かに暮らすとかいった内容に言及されているのは良いかと思う。市民の暮らしぶりが表れるような指標を設定できると良いと思われる。【委員】

⇒ アンケートの設問として、よく利用する公園や地域の自慢を問うのはどうか。また、高齢者にとっては健康づくりのため、安全な公園や緑道が重要であり、普段から親しめる仕掛け（植物や植栽）があり、そうした情報発信が地域からできるとよいと考えられる。

【委員】

⇒ 指標について、行政の事業実施上の指標と、市民の満足度の指標とが混在している状況である。行政側のアウトプット指標よりも、市民により身近に感じてもらえるアウトカム指標の設定について検討を進めてもらいたい。【委員】

⇒ 他部局になるかも知れないが、子育て支援等で訪れた市民にアンケートを実施する方法もあると考えられる。外で遊んでもらうための方策として、親御さんが過ごしやすい、ベンチや日除けがある公園整備も必要になってくるかと思われる。ベンチの数は重要で、増やすためには市民からの寄付などの方法もある。【委員】

⇒ これまでの話をまとめると、子育て世代にお気に入りの公園を問うようなアンケートを、高齢者世代に普段からくつろげる公園を問うようなアンケートを実施する、といった方向性が見えてくるかと思う。【委員】

⇒ アウトカム指標を導き出せるようなアンケート調査は実施していきたい。なお、具体的な設問については、会議後でも結構ですので、思い付かれましたらご連絡いただきたい。今後の課題としては、情報発信が挙げられ、計画策定後は直ちにPRに取り組んでいくことを想定している。【事務局】

⇒ シンボリックな施設整備も重要で、ある自治体ではプレーパークを作ったら、市域外からも利用者が訪れているとのことである。これは来られた人が SNS で発信して広がったとのことである。こうした利用者層を取り込むための施設整備というのもあり得ると思われる。【委員】

・ 桜の新規植栽本数という指標は妥当か。【委員】

⇒ 市の花は桜ということもあり、夙川を主体とした桜の名所もあるため、後継種として桜を植えてほしいというニーズは高い状況である。【事務局】

・ 基本理念について、個人的にはもう少しインパクトが欲しいところ。何かアイデアをいただけるとありがたい。【事務局】

③ 「第5章 行動計画」について

・ p. 39 の「次世代を担う子どもと地域が連携した緑化活動の推進」のところで、「学校」が唐突に出てきている感があるが、「学校と地域とが連携した緑化」とはどのようなイメージか。

【委員】

⇒ 学校と地域の連携に関しては、環境学習の一環として、花と緑のまちづくりリーダーや地域の緑化団体等と協力して、学校におけるさし芽教室や腐葉土づくりなどを実施している。今後もこうした取組は積極的に進めていきたいと記載しているもの。【事務局】

⇒ 学校（先生）も忙しいため、地域の専門のボランティアが学校に入って行って、パッケージとして活動を行うイメージは良いと考えられる。こうした取組の様子を掲載す

るとよいのではないか。なお、学校が主体的に実施するものではないことが分かる書き振りとすることが望ましい。【委員】

- ・ 遊具の安全点検や改修に関して、リスクとハザードをどのように捉え、どのような考え方で実施するのか。【委員】
 - ⇒ 遊具の点検については、国の方針が示されており、年1回の専門点検を実施している。また、専門業者とは別に、シルバー人材センターや地域の清掃団体等による目視点検も行っており、危険箇所については積極的に改修を行っている。なお、子どもの冒険心を刺激するような遊具広場の改修については、地域の関係者と意見交換しながら導入を検討する意向。【事務局】
 - ⇒ 改修の竣工時には、子どもも含めて遊具の使い方をレクチャーする場を設けられるとよい。ドイツのミュンヘン市では、セーフティーエンジニア（公園の遊具の安全性を評価する専門家）がおられ、施設整備に際してアドバイスをしているようである。子どもの成長の過程として、子どもが挑戦する機会を奪わない施策が望まれる。【委員】
 - ⇒ リスクとハザードの境界の設定が重要であり、ハザードの除去は当然として本文にも記載しているが、リスクに関しては言及しきれていない。対応としては、本文での記載を検討するか、今後、各課で予定しているコラムの作成の中で、そうした記載を考えていく。【事務局】
- ・ p. 36の「西宮市オリジナルフラワーの植栽」に関して、六湛寺公園などでの植栽を、全てオリジナル植物で演出してはどうか。ほかにはない公園の特徴を出せるとよい。【委員】
 - ⇒ 見本展示の方法と活用については考えていきたい。【事務局】
- ・ 街路樹の植替えについて言及されているが、街路樹は高木でないといけないのか。【委員】
 - ⇒ 高木でなければならない理由はない。歩道の幅員等の状況を踏まえて樹種を検討することになるため、場所によっては、中木を植えることもある。【事務局】
 - ⇒ 歩行者にも優しい低木を植えることはないのか。【委員】
 - ⇒ 市内では国道171号沿い等で見受けられるが、街路樹の基本的な必要性を考慮しながら検討していきたい。【事務局】
 - ⇒ 街路樹については、戦後、失われた緑を取り戻すために、市場性の高い巨木化する樹木で初期緑化を進めてきた経緯がある。近年、樹種選択の幅が広がり、維持管理のしやすい樹木も出てきた。今後の街路樹の在り方は、全国的にも課題であり、道路幅員や立地条件、見通しの確保等を踏まえながら、検討していきたい。【事務局】
 - ⇒ 街路樹が欠損している箇所に低木を植栽することは景観的におかしいか。【委員】
 - ⇒ すみれ台に限っては、サクラの植栽は難しいと思われる。次の樹種選択は地域の方と相談しながら決定していきたい。そのため、欠損している箇所に低木を植栽することの可能性はあると思われる。【事務局】
 - ⇒ 現在、街路樹の更新時期にきており、単純更新ではなく、いろいろな可能性を検討してもらいたい。逆に植栽してもらいたくない樹種等はあるか。【委員】
 - ⇒ 防犯・防災的な観点から、うっそうと繁るものや虫が付くものは避けられたい。低木は高齢者が転んでもクッション材になるため好ましいと考えられる。【委員】
 - ⇒ これまでの樹種選択を踏襲する必要はなく、根上がりや台風等による倒木の問題等も踏まえつつ、視通や緑陰の確保等も加味しながら検討されたい。【委員】

④ 計画書の構成について

- ・ 現段階の資料は、行政の計画として何をされようとしているのかは分かるが、一般市民にとって関心の持てる、分かりやすい内容・表現になっているかは疑問である。【委員】
 - ⇒ 一般市民に広く理解してもらい、協力を得る必要がある計画であるため、パブリックコメントの実施前までには工夫が必要である。【委員】
 - ⇒ 資料作成の工程として、現段階はまず構成や記載内容を固める段階にあると考えている。今後の方向性としては、文章表現の修正やイメージ写真等を使いながら、また、計画書としての体裁を整えながら分かりやすい資料としていきたい。【事務局】
 - ⇒ これは「計画書」であるため、何を合意したのか、人によって取り方が変わらないようにする必要がある。そのため、これはこれとして作った上で、いかに理解しやすいものにしていくかを考える必要がある。なお、前段の部分が長いと読む気が起こらなくなる。「計画」の主要部分は第3章以降であるため、前段の必要な箇所は資料編に回し、すぐに計画の主要部分に入っていてもよいのではないかと。【委員】

⑤ 欠席委員からの指摘について

- ・ 欠席委員からの指摘に対する回答はいかがか。【委員】
 - ⇒ p. 14 の指摘に関しては、前段は簡略化し、詳細な記載は資料編に回す方が良いと思われる。また、p. 26 からの記述で「目標」を先に書いた方が良いのはそのとおりと考えられる。p. 31 の表については、本日の議論を踏まえ再検討いただきたい。【委員】
 - ⇒ 市民の積極的な参画に向けた、若年層も含めたプラットフォームづくりについては、悩みどころではあるが、公園のリノベーションを実施する際に検討していきたいと考えている。また、防災に関して、今ある公園の質の向上を目指す中で、手押しポンプは災害時の公園活用の象徴的な存在と考えている。具体的な書き方については検討したい。【事務局】
 - ⇒ 地域別行動計画の記述や指標については、次回に向けて検討されたい。【委員】

(4) その他（今後のスケジュール等）について

- ・ 次回の検討会は、8/20(火)10:00～、本庁舎6Fの681会議室で開催する。
- ・ 次回の検討会は、パブリックコメント実施前の最後の検討会となる。
- ・ その後は、9～10月に市議会に報告した上で、パブリックコメントを実施し、年内には、市議会と本検討会での最終報告・検討を実施する予定となっている。
- ・ なお、年内の案の作成までは現状と同様のレポート形式での取りまとめとなるが、最終的な計画書としての発行の際には、デザイナーを入れて体裁を整える予定としている。

以上